

会津のまつり

日本の各地域にはその土地の文化や伝統に基づいた、ユニークで色彩豊かな祭りがあります。これら毎年のお祭りの時期に会津若松市を訪れるなら、ぜひご参加する機会を逃さないください。会津若松の観光情報ソースで、年間を通して行われる様々なお祭りの日程や詳細を確認してください。代表的な祭りは以下の2つです。

会津藩公行列

例年9月下旬、3日間にわたって開催される会津まつりは地域で最大のお祭りです。歴史が息づく祭りのハイライトは「会津藩公行列」です。行列は鶴ヶ城前で行われる剣舞によって始まり、その後約500人の参加者が、会津藩の大名や武士、公家などに扮して市中を練り歩きます。中には馬に乗って参加する人もいて、臨場感もあり盛り上がります。鶴ヶ城を出発した行列は観客の声援を受けながら、市街地を練り歩く。鶴ヶ城の前では、剣術の達人による迫力ある演武が披露されます。また、会津まつりでは地元の子どもたちが提灯を持ったパレードや、誰でも参加できる伝統的な民俗舞踊も行われています。

会津絵ろうそくまつり

会津若松の代表的な民芸品のひとつである手づくりのろうそく「絵ろうそく」。手描きによる草花の絵柄が特徴で、職人が芸術の技を披露します。雪に覆われる2月の第2金曜日と土曜日に開催されます。鶴ヶ城や御薬園など、市内各所に数千個のろうそくが設置されています。最高の眺めを楽しむには鶴ヶ城の天守閣に登って俯瞰して眺めたり、市内を散策して雪とろうそくの光のコントラストを楽しむことができます。

絵ろうそくの技術は、二人の大名の努力によって発展しました。蘆名盛信(1408-1451)は漆器産業を支えるために漆の木の栽培を奨励しました。木の樹液は漆を作るための重要な成分であり、種子から抽出されたワックスはろうそくを作るために使用されました。蒲生氏郷(1556-1595)はろうそくに絵柄を描くことを奨励し、歴代の天皇の庇護のもと、その試みは繁栄しました。現在も宗教儀式や結婚式で使われるほか、お土産としても人気があります。